

高校生バスケットボール選手における 心理的競技能力の特性

——広島県内の地域およびパフォーマンス
レベルについて——

橋 本 晃 啓

はじめに

スポーツの競技場面において質の高い運動パフォーマンスを発揮するためには、筋力や全身持久性などのいわゆる体力と、これらの方向性を持たないエネルギーを制御し、最適な方向づけを行う運動スキルが必要である。しかしながら、この2つの能力だけでは十分ではなく、いわゆるメンタル面の能力、心理的スキルも必要とされる。

競技力の向上において、選手個人は、自己の心理的スキルの特性を知り、必要なトレーニングを行わなければならない。また、指導者も、選手ひとりひとりに関しては本人の同意が必要であると思われるが、少なくとも指導下にある選手集団の心理的的特性を理解しておく必要があると考えられる。

心理的スキルを評価するものとして、徳永と橋本（1988）は、「心理的競技能力診断検査」を開発している。選手個人がこの診断検査を行って心理的スキル特性を知るためには、自己のプロフィールが示されただけでは判断できず、これと比較できるものが必要となる。比較の対象は、すでに行われている他の集団の平均的プロフィールも考えられるが、自分が、所属する集団のどこに位置づいているのかが明らかになれば、トレーニングの目標もより明確になるであろう。これは、指導者についても同様のことが言える。指導者が指導下にある選手集団の特性を知るためには、全体集団

や他の指導者の指導下にある選手集団と比較する必要がある。

そこで、徳永と橋本の「心理的競技能力診断検査」を用い、その能力尺度別プロフィールについて、異なる指導者の指導下にある選手集団に違いが見られるかどうか比較検討を行うことにした。

また、徳永ほか(2000)は、競技レベルが高い選手のほうが、心理的競技能力の能力尺度で、得点が高い者が多いことを示している。そこで、実技のパフォーマンスレベルが高いと判断された選手と高いと判断されなかった選手についても比較検討することにした。

研 究 方 法

1. 被験者

被験者は、2007年度秋田国体の少年男女バスケットボール選手として、広島県内の6つの地域において、第一次選考を受けて選抜された高等学校1, 2年の男子83名、女子86名であった。その内訳は、広島東地区男子13名、女子13名、広島西地区男子13名、女子13名、呉地区男子12名、女子15名、尾道三原地区男子15名、女子14名、三次庄原地区男子16名、女子17名、福山地区男子14名、女子14名であった。

2. 調査項目

心理的競技能力の調査には、トーヨーフィジカル社製「心理的競技能力診断検査(DIPCA. 3, 中学生~成人用)」を用いた。これは、5因子12能力尺度からなる質問紙で、因子「競技意欲」に「忍耐力」「闘争心」「自己実現意欲」「勝留意欲」の4つの能力尺度が、因子「精神の安定・集中」に「自己コントロール能力」「リラックス能力」「集中力」の3つの能力尺度が、因子「自信」に「自信」「決断力」の2つの能力尺度が、因子「作戦能力」に「予測力」「判断力」の2つの能力尺度が、因子「協調性」に「協調性」の1つの能力尺度が含まれている。質問項目は、各能力尺度4つずつの48項目と、回答の信頼性を測る4項目の合計52項目であった。

橋本：高校生バスケットボール選手における心理的競技能力の特性

なお、個人情報に関する調査は、検査用紙では①の性別と②の年齢のみとし、今回は分析の対象とはしなかったが、バスケットボールにおけるポジション、すなわち、1.PG（ポイントガード）、2.SG（シューティングガード）、3.SF（スモールフォワード）、4.PF（パワーフォワード）、5.C（センター）から、自分のポジションを選択するものを追加した。また、自己の診断結果を所属する高校の指導者や選抜チームの指導者に開示することについて、同意するか否かも回答させた。これは、被験者の個人情報の保護に配慮するためであった。

3. 手続き

調査は、国体選抜選手に関する実技による第二次選考と並行して行われた。被験者は地区ごとに集められ、心理的競技能力の説明を受けた。そして、診断結果は、本人の同意なしには他人に開示されることがないことを説明され、結果を郵送するための封筒に自分自身の住所と氏名を記入した。

その後、回答方法について説明を受け、それぞれの質問項目に「いつもそうである」から「ほとんどそうでない」までの5段階評価で回答した。回答後に、5因子および12能力尺度について、被験者本人の得点、被験者全員に関する男女別平均得点、第二次選考で選抜された選手の男女別平均得点が返送されることを告げられ、返送された結果からプロフィールを作成する方法について説明された。

結果と考察

1. 地域について

12の能力尺度それぞれについて、男女別に、6つの地域に関する1要因の分散分析を行った。その結果、男子では、忍耐力 ($F_{(5,77)}=0.60$, NS)、闘争心 ($F_{(5,77)}=1.33$, NS)、自己実現意欲 ($F_{(5,77)}=0.97$, NS)、勝利意欲 ($F_{(5,77)}=1.95$, NS)、自己コントロール能力 ($F_{(5,77)}=0.85$, NS)、リラクセス能力 ($F_{(5,77)}=0.28$, NS)、集中力 ($F_{(5,77)}=0.80$, NS)、自信

($F_{(5,77)}=0.60$, NS), 決断力 ($F_{(5,77)}=1.10$, NS), 予測力 ($F_{(5,77)}=0.92$, NS), 判断力 ($F_{(5,77)}=0.89$, NS), 協調性 ($F_{(5,77)}=1.90$, NS) のすべてにおいて有意な差は認められなかった。表1は、男子について、6地域における各能力尺度の平均得点をあらわしている。この結果から、男子では地域間で差はなかったものと考えられる。

表1 6つの地域における各能力尺度の平均得点 (男子)

単位：点

尺 度	広 島 東	広 島 西	呉	尾道三原	三次庄原	福 山
忍耐力	14.5	13.8	12.6	12.9	13.2	13.3
闘争心	16.7	17.1	15.3	14.3	15.6	16.2
自己実現意欲	16.1	15.9	15.4	14.2	15.6	15.6
勝利意欲	16.5	16.5	15.2	15.1	13.9	15.6
自己コントロール能力	15.5	14.7	14.3	14.3	14.5	13.0
リラックス能力	14.4	13.2	13.8	13.3	12.8	12.5
集中力	15.6	15.2	15.1	15.5	14.2	13.7
自信	12.3	12.0	10.4	10.5	11.2	11.1
決断力	12.4	11.5	9.7	10.9	11.0	11.4
予測力	11.8	11.7	10.3	10.1	10.7	11.6
判断力	11.8	11.8	9.6	10.5	10.3	11.0
協調性	15.8	17.5	14.7	14.2	16.0	15.4

一方、女子では、闘争心 ($F_{(5,80)}=1.98$, NS), 自己実現意欲 ($F_{(5,80)}=1.26$, NS), 勝利意欲 ($F_{(5,80)}=2.10$, NS), 自己コントロール能力 ($F_{(5,80)}=2.02$, NS), リラックス能力 ($F_{(5,80)}=0.71$, NS), 集中力 ($F_{(5,80)}=0.72$, NS), 自信 ($F_{(5,80)}=1.82$, NS), 決断力 ($F_{(5,80)}=2.14$, NS), 予測力 ($F_{(5,80)}=2.50$, NS), 判断力 ($F_{(5,80)}=1.59$, NS), 協調性 ($F_{(5,80)}=0.73$, NS) では有意な差は認められなかったが、忍耐力 ($F_{(5,80)}=4.78$, $p<0.01$) では1%水準で有意差が認められた。このことから、テューキーのHSD検定を行ったところ、広島東地区の得点が、三次庄原地区および福山地区の得点よりも5%水準で有意に高いことが明らかになった。表2は、女子について、6地域における各能力尺度の平均得点をあら

橋本：高校生バスケットボール選手における心理的競技能力の特性

表2 6つの地域における各能力尺度の平均得点（女子）

単位：点

尺 度	広 島 東	広 島 西	呉	尾道三原	三次庄原	福 山
忍耐力	14.8	13.8	13.1	13.2	11.8	12.3
闘争心	17.2	15.2	16.1	15.3	13.6	15.1
自己実現意欲	16.3	15.2	16.5	16.6	15.2	14.7
勝利意欲	16.4	15.9	15.8	15.4	14.1	14.9
自己コントロール能力	12.0	14.6	12.2	14.0	12.6	11.4
リラックス能力	11.1	13.1	11.5	11.8	12.2	10.4
集中力	14.0	14.2	13.1	14.6	14.5	12.9
自信	10.5	10.2	9.3	9.2	7.9	8.1
決断力	11.5	10.3	9.6	9.2	8.4	8.7
予測力	11.3	11.2	11.2	10.2	8.7	9.2
判断力	10.5	10.6	9.5	8.8	8.4	8.6
協調性	16.9	16.5	15.9	16.9	15.9	15.4

わしている。

広島東地区の被験者には、インターハイ出場常連校の選手が含まれている。これらの学校では、日ごろから厳しい練習を行っており、上の結果は、つらさや苦しさに耐えることの指導がなされていることによると思われる。男子でも、広島東地区にインターハイ出場常連校が多くあり、忍耐力の平均得点は高いようではあるが、他の地区と有意な差があるとはいえなかった。女性のほうがつらさや苦しさに負けてしまいがちであるという意識が指導者にあり、この面の指導が強化されているのかもしれない。指導者に聞き取り調査をする必要がある。

2. パフォーマンスレベルについて

次に、この調査と並行して、実技による国体選抜選手の第二次選考が行われていた。そこで、この選考によって選抜された選手と選考にもれた選手について、男女別に、12の能力尺度の得点を比較した。図1は男子の結果を、図2は女子の結果をあらわしている。いずれも、縦軸は12の能力尺度、横軸は平均点である。選抜された選手は、男子で28名、女子で24名、

選考にもれた選手は、男子で55名、女子で62名であった。各能力尺度のグラフは、下側が選抜選手のもの、上側が選考もれ選手のものである。

男女別に、12の能力尺度それぞれについて、選抜選手と選考もれ選手との間で1要因の分散分析を行った。結果は以下のとおりである。

男子では、自己コントロール能力 ($F_{(1,81)}=2.61$, NS), リラックス能力 ($F_{(1,81)}=0.28$, NS), 集中力 ($F_{(1,81)}=0.83$, NS) の3つの尺度については有意な差が認められなかった。しかし、忍耐力 ($F_{(1,81)}=4.25$, $p<0.05$), 闘争心 ($F_{(1,81)}=5.03$, $p<0.05$), 自己実現意欲 ($F_{(1,81)}=4.51$, $p<0.05$), 勝利意欲 ($F_{(1,81)}=6.17$, $p<0.05$), 決断力 ($F_{(1,81)}=6.77$, $p<0.05$) の5つの尺度については5%水準で有意な差が認められ、協調性 ($F_{(1,81)}=7.77$, $p<0.01$) については1%水準で有意な差が認められた。また、自信 ($F_{(1,81)}=3.24$, $p<0.10$), 予測力 ($F_{(1,81)}=3.52$, $p<0.10$), 判断力 ($F_{(1,81)}$

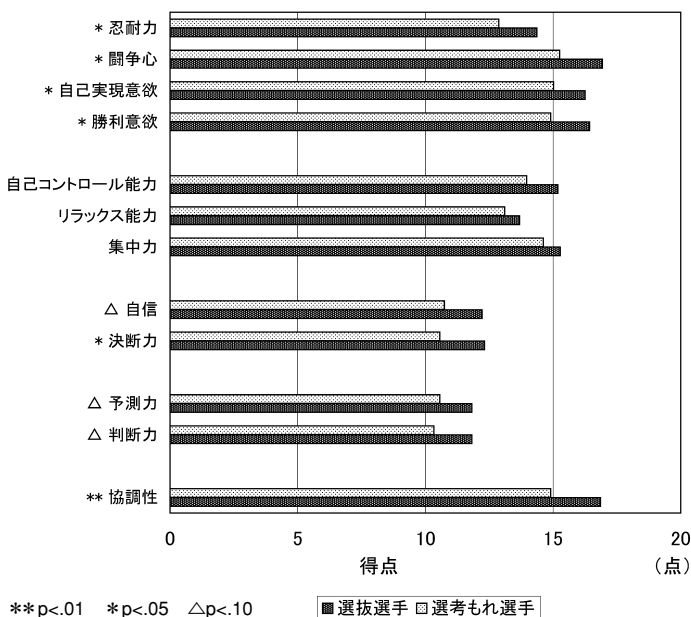


図1 12能力尺度における選抜選手と選考もれ選手の平均得点 (男子)

橋本：高校生バスケットボール選手における心理的競技能力の特性

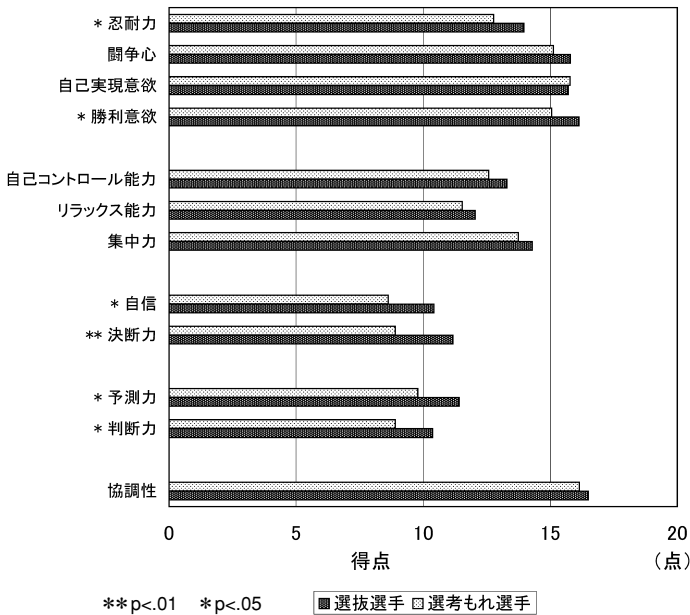


図2 12能力尺度における選抜選手と選考もれ選手の平均得点 (女子)

=3.89, $p < 0.10$) の3つでは、差がある傾向が認められた。

一方女子では、闘争心 ($F_{(1,84)} = 0.71$, NS), 自己実現意欲 ($F_{(1,84)} = 0.01$, NS), 自己コントロール能力 ($F_{(1,84)} = 0.78$, NS), リラックス能力 ($F_{(1,84)} = 0.26$, NS), 集中力 ($F_{(1,84)} = 0.54$, NS), 協調性 ($F_{(1,84)} = 0.31$, NS) の6つの尺度については有意な差が認められなかった。しかし、忍耐力 ($F_{(1,84)} = 5.88$, $p < 0.05$), 勝利意欲 ($F_{(1,84)} = 4.11$, $p < 0.05$), 自信 ($F_{(1,84)} = 6.44$, $p < 0.05$), 予測力 ($F_{(1,84)} = 5.82$, $p < 0.05$), 判断力 ($F_{(1,84)} = 4.51$, $p < 0.05$) の5つでは5%水準で有意な差が認められ、決断力 ($F_{(1,84)} = 11.00$, $p < 0.01$) については1%水準で有意な差が認められた。

なお、この結果は、図1および図2のそれぞれの能力尺度の左に、「*」、「*」および「△」であらわしてある。

以上の結果から次のことが考えられる。表3は、男子について、選抜選

手と選考もれ選手ごとに、12の能力尺度の平均値をあらわしたものである。表中の「選抜」は選抜選手のもの、「もれ」は選考もれ選手のものである。また「徳永ほか」は、先行研究において徳永ほか（2000）が示したデータのうち、高校生男子バスケットボール選手の平均値を引用したものである。

表3 選抜選手と選考もれ選手の平均得点（男子）

単位：点

尺 度	選抜	もれ	徳永ほか
忍耐力	14.4	12.9	14.3
闘争心	16.9	15.3	16.0
自己実現意欲	16.3	15.0	15.5
勝利意欲	16.4	14.9	15.8
自己コントロール能力	15.2	14.0	13.9
リラックス能力	13.7	13.1	13.1
集中力	15.3	14.6	14.4
自信	12.2	10.7	11.9
決断力	12.3	10.6	12.2
予測力	11.8	10.6	11.6
判断力	11.8	10.3	11.8
協調性	16.9	14.9	16.1

この表を見ると、有意差または差の傾向が認められた9つの能力尺度では、すべて選抜選手の得点のほうが選考もれ選手のそれよりも高いことがわかる。今回の結果からも、競技レベルが高い選手のほうが心理的競技能力が高いといえよう。

有意差が認められなかった、自己コントロール能力、リラックス能力、集中力については、選考もれ選手の平均値を徳永ほかのデータと比較してみると、ほぼ同等であることがわかる。有意差が認められた9つの能力尺度に関しては、徳永ほかのデータは今回の選抜選手と選考もれ選手との間にあるようである。徳永ほかの被験者が、今回の被験者のように、国体の選考に残るレベルの選手であったかどうかは明らかではないが、今回の選考もれ選手では、自己コントロール能力、リラックス能力、集中力の得点

橋本：高校生バスケットボール選手における心理的競技能力の特性

が相対的に高く、このことにより選抜選手との間に差が認められなかったものと思われる。

表4は、女子について、選抜選手と選考もれ選手ごとに、12の能力尺度の平均値をあらわしたものである。表中の「選抜」は選抜選手のもの、「もれ」は選考もれ選手のものである。また「徳永ほか」は、先行研究において徳永ほか（2000）が示したデータのうち、高校生女子バスケットボール選手の平均値を引用したものである。

表4 選抜選手と選考もれ選手の平均得点（女子）
単位：点

尺 度	選 抜	も れ	徳永ほか
忍耐力	14.0	12.8	14.1
闘争心	15.8	15.1	16.1
自己実現意欲	15.7	15.8	16.7
勝利意欲	16.1	15.0	15.8
自己コントロール能力	13.3	12.6	14.0
リラックス能力	12.0	11.5	12.6
集中力	14.3	13.7	14.7
自信	10.4	8.6	10.7
決断力	11.2	8.9	11.0
予測力	11.4	9.8	11.0
判断力	10.4	8.9	10.6
協調性	16.5	16.1	16.6

この表を見ると、有意差が認められた、忍耐力、勝利意欲、自信、予測力、判断力、決断力について、すべて選抜選手の得点のほうが選考もれ選手のそれよりも高いことがわかる。しかし、選抜選手の得点を徳永ほかのデータと比較すると、男子においては、選抜選手の得点が徳永ほかのデータと同等かまたは上回っていることが見受けられるが、女子ではほとんどの尺度で同等かまたは選抜選手のほうが下回っていることがわかる。特に、有意差が認められなかった、闘争心、自己実現意欲、自己コントロール能力、リラックス能力、集中力では徳永ほかのデータより数値が低いようで

ある。このことからすれば、女子の場合も、競技レベルが高い選手のほうが心理的競技能力も高いようではあるが、今回の選抜選手も選考もれ選手も、全般的に心理的競技能力は低く、まだトレーニングの余地が残されていると考えられる。ただ、協調性に関しては、徳永ほか（2000）が男女比較において女子のほうが有意に高かったことを報告している。今回の女子選考もれ選手も比較の高い得点を示しており、女性で協調性の得点が高いということから、選抜選手との間に差が認められなかったものと思われる。

付 記

本調査は、広島県体育協会スポーツ医・科学委員会スポーツ心理学班の研究事業の一環として行われた。

被験者になった選手には、個人の得点、男子または女子全員の平均得点、および男子または女子選抜選手の平均得点を返送した。パフォーマンスレベルが高い選手集団の情報は、選手個人にとって比較対象として有益だと思われる。

また、表1～4に示した本調査結果を、各地区の指導者に対するフィードバック情報として、広島県高等学校体育連盟バスケットボール部に提供した。

文 献

徳永幹雄，橋本公雄（1988）スポーツ選手の心理的競技能力のトレーニングに関する研究（4）—診断テストの作成—。健康科学 10：73-84。

徳永，吉田，重枝，東，稲富，斉藤（2000）スポーツ選手の心理的競技能力にみられる性差，競技レベル差，種目差。健康科学 22：109-120。